



# ウインターカップ2023静岡県予選 大会展望

文：中島 洋己

((一社) 静岡県バスケットボール協会広報委員長・県立科学技術高校教諭)

第76回全国高校バスケットボール選手権大会(ウインターカップ2023)静岡県予選が令和5年10月21日に開幕する。11月12日に静岡県武道館で県代表が決まり、12月23日から聖地・東京体育館および武蔵野の森総合スポーツプラザで行われる全国選手権大会へ出場することとなる。3年間以上に渡り全世界を苦しめている新型コロナウイルス感染症も日本では今年5月8日から「感染症法上の第5類」に分類されることとなり、通常の季節性インフルエンザと同等の扱いとなった。感染者数も実数把握から定点把握になり、正確な感染者数は我々の耳に入っては来ていないが、世間では「第9波」突入や「エリス」「ピロラ」など新変異株の出現のニュースも聴こえ、さらにはコロナとインフルエンザの同時流行への懸念も広がり、「収束」という二文字を容易に当てはめるのはまだ危険である。しかしながら、これから続く「アフターコロナ」下での大会開催において、「コロナ禍」「ウィズコロナ」で開催したノウハウを生かしながら、選手側・運営側双方が十分に感染症対策を施して大会に臨むこととなる。その中で入場制限や応援制限もなくなり、まるで4年前にタイムスリップしたような環境で大会を迎えられることを心から喜ばしく思う。

今大会、静岡県予選は「嬉しい悲鳴」をあげるようなイレギュラーなレギュレーションとなった。6月に行われた地元・静岡県で行われた東海高校総体で藤枝明誠が見事優勝し、静岡県男子にウインター出場枠を「もう1枠」呼び寄せてくれた。本大会出場枠が2枠になるのは同じく藤枝明誠が大分インターハイで準優勝した平成25年以來10年ぶり、まさに県内バスケット界待望の快挙と言える。だが当時と大きく違うところは、当時は「当該チーム」に与えられていたプラスワンのウインター出場権が、一昨年からブロック大会優勝を含めてそのまま「当該都道府県」に与えられることになった点である。この変更は大会運営にも大きく影響し、10年前はすでにインハイ準優勝でウインター出場を決めて県予選出場義務を負わない藤枝明誠を除いたトーナメントを行い、その最終戦を県代表決定戦と銘打ち県代表を決めて、そのあと藤枝明誠が満を持して超スーパーシードで決勝戦に登場、優勝を飾ってウインター出場に花を添えた。その特殊なトーナメント形式はテレビでも取り上げられたほどである。しかしながら、3年前から全チームに3試合以上の予選出場義務が課され、なおかつ出場を2枠持つ都道府県は決勝リーグを実施しており、今回本県も男子は決勝リーグ制を採用することとなった。一方で女子は例年通り完全トーナメント制で行うため、史上初めて男女でレギュレーションが違う大会となる。決勝リーグはウインター予選では平成9年まで、県総体では昨年まで、県新人戦は令和元年度から実施されており我々にも馴染みのある方式ではあるが、サッカーやバスケのワールドカップ・野球のWBCでも話題になったようにリーグ戦は得失点差や直接対決の勝敗、試合順、相性などさまざまな要因が命運を左右する場合があります、感動のドラマを数々生んできた。上位4チームは最後まで気が抜けない戦いが続く。

また、今年の県武道館シリーズから試合球としてモルテン製12面体球を使用することとなった。県内U18大会では初の試みとなる。以前は全国大会でナイキやモルテンの8面体球が使用されていたが令和になってからモルテンの12面体球に変更となり、静岡県も全国大会の基準に合わせて県武道館では12面体球を使うことになった。12面体球は縫い目の間の面が多い分、指先への引っ掛かりがよくシュートも打ちやすく、白いラインが描かれているためリバウンド時に軌道を確認しやすいというメリットがある。なお大会4日目までは例年通りモルテン・ミカサの8面体球を使うこととなる。いずれにせよ、今年は例年以上に激戦になることが予想され注目の大会となること必至である。全国を賭けた「秋の風物詩」県高校バスケット最高峰の戦い、その栄冠をつかむのは果たしてどのチームなのか今から興味が尽きない。

昨年に続き『D-Spoウインターカップ県予選特集号』(『Drive』から改題)が刊行されることになった。オールカラーでまるごとウインター特集、県総体に出場した男女全チームを網羅、多くの注目選手がピックアップされている。私も僣越ながら巻頭の大会展望を寄稿させていただくという身に余る光栄な重責を担わせていただいた。D-Spo誌では限られた誌面の中で優勝候補順に書き上げる従来のスタイルで執筆したが、2年ぶりの掲載となる大会プログラムの中ではブロック別に書き上げる形を取った。紙幅も十分あるので、また違った角度から大会を分析できることに喜びを感じている。

最後に9月に沖縄県で行われた『ワールドカップ2023』で男子日本代表がヨーロッパ・南米・アフリカの強豪を相手に3勝し、見事48年ぶりに自力でオリンピック出場権を獲得した。結果もさることながら、その試合内容は日本国中に感動の渦を巻き起こし我々に勇気と希望を与えてくれた。今大会に参加する選手たちも間違いなく試合を観戦し、勇気づけられたはずである。空前の「バスケブーム」を迎えつつある今、来年開催のパリ・オリンピックに向けて一過性の盛り上がりで終わらせないよう、代表選手に負けないくらいの気迫あふれるプレーを見せて大会を盛り上げて欲しい。



大会展望の執筆に際して、毎回私の右腕として職務を果たしてくれている**山口裕史**県協会広報副委員長（榎矢崎部品）に多大な御尽力をいただいている。この場を借りて御礼を申し上げるとともに、いつか私の後継者となってこの重責を引き継いでいただけることを切に願っている。

## 男子

昨年度インハイ・ウインター共に全国3位、今年のインハイでもベスト8に入り、その実力は全国指折りである藤枝明誠が優勝の大本命ではあるが、今年の全国出場枠は「2」、その2枠目を巡る争いは熾烈となること必至である。今年は四半世紀ぶり決勝リーグを実施、実質的な試合数も増えることとなり、必然的に私たちの楽しみも増えることになる。混戦になった場合は勝ち方や負け方も命運を左右する緊張感あふれる戦いとなる。

左上のブロックは、第1シードの藤枝明誠が圧倒的な強さを誇ることは言うまでもないが、公立の雄・浜松西、昨年ベスト8・エース**辻大楽**のオフェンス力で得点を量産して一気に勝負を決める**浜松工業**、創部7年目での最高順位・県新人7位に入った**浜松聖星**などの浜松勢が藤枝明誠への挑戦権と初の県武道館メインコートを目指してしのぎを削ることが予想される。

**藤枝明誠**は県新人・東海新人・県総体・東海総体・天皇杯県予選すべてを制して磐石の安定感でまさに「東海無双」、インハイでも準優勝した東山を大いに苦しめて堂々のベスト8、昨年から新設された『日清食品U18トップリーグ』参加校にも早々と選出されるなどすべてか全国トップレベル、その先には常に全国制覇を見据えているチーム、静岡県男子に「もう一枠」をもたらしてくれた功績は計り知れない。中心となるのは昨年来チームの主力として活躍する赤間とロードプリンス。人呼んで得点量産機・**赤間賢人**は得点感覚に優れ、ジャンパー・ドライブ・3Pなど多彩な攻撃スタイルで得点を積み重ねる。特に3Pの精度は非常に高く、また時折見せる日本代表・富永啓生を彷彿させるディープスリーで会場を魅了、プレーのすべてに華がある選手である。インハイ終了後、チーム事情でポイントガードにコンバート、司令塔を任されることになり試行錯誤を繰り返す毎日、相手に対策を練られてマークがきつくなり思うような攻めが出来ない状態も見られるが、すぐに司令塔という花形の新天地に適応し我々が想像もしないスーパープレーを見せてくれると信じている。

赤間が外の大黒柱なら中の大黒柱は**ボヌロードプリンスチノソ**。今大会最高身長209cm、全国レベルで見ても日本航空のジェラマイア、美濃加茂のフェイバーと並ぶ留学生3本の指に入る実力の持ち主、得意のリバウンドだけでなく執拗な相手ディフェンスに囲まれた時など無理せずいったん外にアウトレットパスを出して仲間のシュートを導き出すつなぎのプレーやスピードも目につくようになり、カーボベルデ代表のウォルター・タバレスのような走れるセンターになりつつある。来日して1年が過ぎて日本語も堪能になり、コミュニケーションの点でも不安が解消された。昨年のウインターでリバウンド王に輝き、県新人決勝リーグでは驚異の1試合62得点、数々の栄光を記録したロードプリンスにこの夏新たな勳章が増えた。インハイ2回戦・美来工科戦で46得点・27リバウンド・11ブロックのトリプルダブルを記録した。全国大会でも得点・リバウンド・アシストでのトリプルダブル達成は稀に耳にするが、今回はアシストではなくブロックショットでのトリプルダブルなど記憶にはない快挙、インサイドでの無類の強さを証明することとなった。11本のショットブロックもさることながらフリースロー8本、3Pなしでの46得点は驚愕のスタッツ、その後の2試合もきちんとダブルダブルを達成、快挙に花を添えることになった。唯一にして最大の気掛かりは9月の練習試合で肩を負傷してトップリーグを欠場していること。大事には至らずウインターには間に合う見込みと聞かすが、チームの浮沈に大きく影響することだけにその回復の度合いが非常に心配である。

赤間頼みのオフェンスになると攻め手を欠くこともあり、それを補うためにも期待されるのが他のプレーヤーの活躍となる。チームキャプテン**小澤朋樹**は赤間もうらやむシュートタッチの良さが魅力、日本一のシューターになるべく一意専心で練習に打ち込む。数少ない県内出身選手・**大塚絢心**はそのスピードが生命線、50m6.2秒の俊足でコートを駆け抜く。ルーキー・190cm**野津洸創**は中学3年間で身長が30cm以上も伸びて、その成長のたびに求められるプレーにもその都度対応するなど適応能力に秀でる。中学時代クラブチームでJr.ウインターにも出場した実力の持ち主、すでに主力として活躍してチームに貢献している。その他、リバウンドの位置取りが絶妙でセカンドショットへの初動も速い**斎藤佑真**、インハイ後赤間に代わり得点源のスマールフォワードに抜擢されトップリーグ開幕戦では3P4本を含む19得点・上々のデビューを飾った**檜垣奏太**、入学直後の県総体にも出場し国体選手にも選ばれた**柴田陽**、そしてロードプリンス欠場の穴を埋めようと必死にボールに食らいつく190cm**片山ジャズィエル**など全国トップレベルの戦力で全国制覇まで駆け抜ける。

東海新人・東海総体ともに決勝戦では美濃加茂が仕掛けてきたチェンジングディフェンスの中で、トライアングル・ツースを仕掛けられた時間帯で得点が伸び悩むシーンがあった。それでも勝ち切る藤枝明誠はあっぱれであるが、各チームも弱点を研究してくるだろう。万全の状態で行きつればウインター出場は太鼓判の戦力を持つだけに、敵は「ケガと己（おのれ）」にあることを心に刻んで連覇を果たして欲しい。

藤枝明誠とブロック決勝での対戦が予想されるのは**浜松西**。県武道館常連の公立強豪校であるが、昨年は体調不良者が出た



ため4回戦で無念の棄権、その後の県新人・県総体ともに7位を堅守、今大会は新チームでブロック決勝まで勝ち上がることが当面の目標、そのうえで藤枝明誠とどう勝負していくかを考えたい。昨年来試合出場を続ける**高柿翔・増田健太**を中心に、**山田凌大・倉山和騎・尾藤遙陽・山田悠睦・関宮怜央**という180cm代の選手5人揃えて高さでも勝負する。特に尾藤・関宮は全中3位の実績を持つ大型新人、今後が楽しみなチームである。

**静岡北**にも注目したい。星陵を長年率いて東海大会出場2回・国体監督の経験もある**須藤剣吾**監督が今春着任、夏の強化大会などを通じて少しずつチームに「須藤イズム」が浸透しつつある。選手にとっては教わることすべてが目から鱗、まだまだ発展途上のチームではあるが、県内有数の指導者に鍛えられた2年後、3年後が楽しみなチームである。

その他の注目選手として、**梅村裕真・鬼倉拓司・天田虎之介・渡邊虹道・金子來樹・福間聖也**（藤枝明誠）、**鈴木心・坂野陽翼・中澤勇翔・河合真叶・江間真都**（浜松工業）、**木下結斗・渥美稜平・佐野裕章・原田峻**（浜松聖星）、**岸井勢・碓石優希・鈴木宏佑**（浜松学芸）、**川口龍輝・ナカノレイネル・芦澤怜**（静岡大成）、**元野陽斗・片瀬巧**（静岡東）、**山本宙**（静岡北）、**若原創太・百瀬暁・増田脩人**（静岡）、**森彗登・武田大輝**（相良）、**清水彪牙・稲葉啓**（浜松湖東）、**クンナンナッタウト**（沼津工業）、**齋藤光希**（清流館）、**小永井謙達・今村奏太**（富士宮西）、**松浦妙樹・鈴木万弘・鈴木幸喜**（磐田農業）などを挙げたい。

左下のブロックは県総体4位・飛龍と5位・沼津中央が決勝リーグ進出を賭けての直接対決で雌雄を決する展開が予想される。

**飛龍**は昨年度末で10年間チームを率いて全国に9回導いた**原田裕作**監督が退任、4月からは長年原田氏の懐刀として帝王学を学んだ**大石康史**が新監督に就任、アシスタントコーチには二人の愛弟子である**原千容**が着任、**勝又幸正**コーチも交えた3人での「トロイカ体制」で新チームを始動させた。手探りのうちに始まった県総体では4位に甘んじ6年ぶりに東海総体も逃したが、決勝リーグに進出して全国を手に入れる実力は十分にある。キャプテン**佐藤柚人**を中心に、ガード陣にはエース**野田悠峨**、ディフェンスの要となる**阿部光音**、シューター**瀬古迅・渡邊光・中原春翔・竹村勇祐・長尾祥太**、中盤には攻守でチームにリズムを与える**中久喜光祐・植木大夢**、インサイドには**植田悠路・中村飛鳥・竹本雅矢**など多彩な戦力が揃う。原田前監督へ全国大会での恩返しを胸に、3年ぶりの東京体育館を目指す。

**沼津中央**は県総体準々決勝で浜松開誠館相手に終盤失速し逆転負け、それでも続く浜松商業・静岡学園戦に連勝し5位を確保した。このチームの特色は自分たちのバスケットを貫き通し、リズムを保ちながら相手が仕掛けにうまく対応して最後は勝ち切るバスケットが出来ること。打ち合いには打ち合いで、ロースコアゲームには激しいディフェンスで対応する底力のあるチームと言える。県内屈指のリバウンダー 188cm**桐生武蔵**、静岡学園戦で相手の意気を消沈させるようなシュートを立て続けに決めたことが記憶に新しい**内藤海夏人**、最上級生になって落ち着いたプレーが目につく**新垣颯野・上里颯慎・稲葉司**、昨年の国体選手・シックスマンとしてピンチに馳参じる**小林史駒**、そして中学時代を千葉県で過ごし日本の教育や文化に十分に慣れてから沼津中央に入学、191cmの長身と筋肉質なフィジカルを生かしたパワープレーで東海国体でも活躍したモンゴル人留学生**エルデネサイハンエルデネバト**（大会規定では日本人扱い）の戦力で決勝リーグ進出、そして8年ぶりのウインター出場を狙う。そのためにはブロック決勝での対戦が予想される飛龍との「学園通り対決」に是が非でも勝たなければならない。

同じブロックの**静岡商業**は昨年の県総体で逆転勝利を飾った沼津中央と今年も県総体で対戦、シュート力とリバウンドに差が出て惜敗、ベスト16に終わった。今回順調に勝ち上がれば5回戦で沼津中央との再戦が待ち構える。エース・**市川昊**はオフェンス力すべてに関してワンランク上の選手、外からシュートを放てば高確率でリングに吸い込まれるアウトサイドの魔術師、ドライブやジャンプショットもそつなくこなすオールラウンダー、今大会注目プレーヤーの一人としてプログラムの裏表紙にも抜擢した。チームも中部新人2連覇中、中部総体も3位と地力があり、県総体のリベンジを果たす可能性は十分ある。

このブロックには男女通じて唯一の初出場、そして公式戦自体も初出場の**焼津**がいる。明治35年創立、120年の歴史を誇る伝統校、県内私学唯一の総合学科で長年女子校を貫いてきたが令和3年に一部系列で共学化、今年全系列で完全共学化となったことで男子バスケットボール部を創部、インハイ予選は参加していなかったため今大会が公式戦の初陣となる。男子部の創設は平成29年の浜松聖星以来6年ぶり、この少子化の中で喜ばしいニュースである。もちろん全員1年生、キャプテンの**秋田隼斗**を始め、主力の**阿部航己・増田悠来**など初々しいメンバーで初の公式戦コートに立ち初勝利も狙う。

その他の注目選手として、**大島唯翔・新藤楓月・村上悠翔・安井誠人**（三島南）、**望月良依繁・北堀遙大・齊藤遙人・仲山柊志・大瀧浩誠・水谷琉貴**（静岡商業）、**清水風多・塚本大輝・増田好汰・近藤翔太・バヒアンリアンエマヌエル**（島田工業）、**田村勇人・山本蒼翔・尾形空・本田匠**（静岡市立）、**大石海里・久保山大聖・金諒紀**（藤枝東）、**池谷佑月・新海涼太・漆畑椋大・川口将吾・荻野陽向**（東海大静岡翔洋）、**小林美旺斗**（藤枝北）、**山本来瑠寿・後藤日々航**（浜松湖北）、**齊藤壮哉・小林花道**（島田樟誠）、**新西颯仁・中野海球空**（御殿場）、**向島怜生**（藤枝西）、**中村颯良・アセソルカメ**（浜北西）、**カララケルビン・伊藤**



颯真（小笠）、村上幸斗・高木強臣・前嶋天聖・手塚晃生（沼津中央）などを挙げたい。

右上のブロックは東海総体と東海ブロックリーグで強豪・桜丘を追い詰めた浜松学院と県総体6位・キャリアを積んだ上級生と将来有望な下級生が有機的に機能して力を発揮する静岡学園を中心に、三島北・葦山という東部の実力校が居並ぶ楽しみなブロックである。

浜松学院は西部総体・県総体で敗れた浜松開誠館に東海リーグで競り勝ち上昇気流に乗っている。先述のとおり桜丘とも接戦を演じ、浜松開誠館とともに打倒・藤枝明誠の最右翼である。昨年の伊藤ハリーのようなテクニクと派手さも持ち合わせる選手はいないが、インサイドの高さとディフェンスへの高い意識で堅守速攻を愚直なまでに貫き通す職人集団である。誰がエース・スコアラーではなく全員が得点源、その中でも鈴木海成と大倉成矢が得点を重ねる展開が勝ちパターン。元来ともに3Pシューターであるが相手の1線位置が高い場合は無理にシュートに行かずにドライブや3線に落とすパスで攻撃の糸口を見出す頭脳プレーが光る。中盤には西垣玲央・石原弘幸・末永蒼・藤井惺楽などの場数を踏んだ兵（つわもの）が、インサイドには衛藤巧・伊藤匠・松本特虎など185cm級のプレーヤーが待ち構える。7年ぶりの全国出場を狙う今大会、共に順調に勝ち上がれば決勝リーグ初戦で再び相まみえる浜松開誠館との戦いが事実上の全国出場決定戦と言っても過言ではない。

静岡学園は新進気鋭の1年生が多く加入し上級生とうまく機能すれば台風の目となりうる存在である。上級生には常にボールを持ちながらコートバランスを見極めて適切な指示を出す司令塔・石川凛久を中心に味岡大斗・鎌田優芯・米内天馬・伊藤大和・望月花道と実績を積んだ選手が揃う。その中でも私はインサイドの大串泰雅を非常に高く評価する。現在はゴール下を任せられリバウンドに活路を見出しているが、元来は何でも器用にこなすオールラウンダー。県総体・沼津中央戦で見せた密着する相手をパワフルなドリブルでペイントエリアまで押し込みブロックショットが来るとみるやここぞとばかりに絶妙なタイミングで放ったフックシュートはまさに「美技」であった。下級生にも山田伊吹・金城光史朗・山口遼也・渡邊昊・小長井優磨・内山直陽、焼津市選抜としてモンゴル遠征にも参加した大畑旺輝や国体の予備選手にも選ばれた大長真士など有望な選手が多いのが特色。ブロック決勝で対戦が予想される浜松学院との戦いは息つく暇もない展開になるはずだ。

前回県総体の大会展望で取り上げた注目の一戦が再現される可能性がある。両者順調に勝ち上がれば4回戦で実現する「静岡城北ー葦山戦」。前は紙面で予想した以上の激闘となり中盤に逆転した葦山が静岡城北の猛追を振り切り5点差で逃げ切る名勝負を繰り広げた。今回はともに新チームでの出場となり当時の戦力とは違う部分もあるが、葦山はその試合チーム最多タイ16点を決めた萩原諒を中心とした堅守のチーム、静岡城北は外回りの小澤柚貴・新村俊樹・花村詩穂の長距離砲トリオと球際に境地を開く山本空を加えた攻撃的なチーム。実現すれば今回も熱戦になること必至である。

このブロックには今大会日本出身最高身長選手がいる。誠恵192cm・中田舜。中学まで運動経験もなく、高校からバスケットを始めたが田川誉高監督の粘り強い熱い指導のおかげでインサイドのパワープレーが少しずつ成長、リバウンドは絶対に譲らないという闘志が前面に出て、チームも彼の成長とともに進化する相乗効果を見せ始めた。去年は2勝してベスト32、今年もまずはそこが目標となる。

今年度伊東商業と伊東が統合して新設された伊豆伊東もこのブロック。初出場ではあるが統合2年前の令和3年から合同チームで出場、実質的には3度目の出場とも言える。3度目の正直で文字通りの初勝利を狙う。

その他の注目選手として、染谷斗海・オクラロナン・藤田侑（焼津中央）、桑高綸太郎（浜名）、長田一輝（焼津水産）、牧野圭祐・増田美勇・曾根田在・戸篠海瑛・大石聖悟（科学技術）、ワシントンマロン・白川紳（松崎）、西川尊（清水南）、白井佑樹・日野原怜琉（静岡聖光学院）、加藤陽・倉智ジョン（裾野）、小島創・高橋奏樹（沼津東）、鴻池信一郎・向島鉄郎（駿河総合）、廣岡樟大・内田智大・杉田知駿（掛川西）、長谷川彰（富岳館）、秋山裕大（誠恵）、佐藤優生・細木健命（葦山）、野田優・濱田寛太郎・羽生田琉太・芹澤颯馬（三島北）などを挙げたい。

右下のブロックは昨年準優勝・県総体2位で今大会に挑む打倒藤枝明誠の一番手・浜松開誠館と今年に入って県新人5位・県総体6位と県ベスト8を堅守する公立の星・浜松商業、県新人6位・星陵を中心とした争いになるだろう。

一昨年の覇者・浜松開誠館は内外に能力の高い選手を多く擁して藤枝明誠を猛追する。エース山下朔史は昨年まで2年間県選抜としても活躍、攻撃的なポイントガードとして自ら突破して得点を重ねるだけでなくアシストやスティールなど間接的にも得点に絡む。好不調の波がほとんどない安定感のある選手でどんな相手にもペースに惑わされずに自分の信じたバスケットを貫く硬派な選手。県総体決勝でも東海総体でもチームの半分は彼の得点、特に東海総体では驚異の3P8本を決める大活躍、ブロックに行く留学生の長いリーチの上に行く高くて綺麗な軌道で吸い込まれる3Pシュートは芸術品である。鋭いドライブ



と堅実なディフェンスでチームの躍進を演出するオールラウンダー、非常に大きな期待を込めて評価させてもらえば先日のワールドカップでMVPを取ったドイツ代表のデニス・シュルダーにも敬意を表しながら「将来の和製シュルダー」と呼ばせてもらい私からの期待も込めた最大の賛辞としたい。ゴール下の190cm・**工藤寧朗**はプレーの先を見越してゲームをコントロール、リバウンドにも飽くなき執着心を見せて山下に気持ちよくスリーを打たせるお膳立てをする。新人戦までは優しさがプレーに出すぎてしまう場面も見られたが、総体以降は力強さが増して気迫あふれるプレーと表情になってきた。他にも当たり負けしない強靱なフィジカルが魅力・**川島純**、絶妙なタイミングで合わせを使得点を導き出す**荻田凌平**、東海総体でもスタメン出場を果たした**半場太力**、国体選手にも選ばれて高い得点を披露した**高森カイル**、途中出場した県総体決勝・藤枝明誠戦で3P3本を決めた**岸川藍佑**など誰がコートに出ても遜色ない高いクオリティーのプレーが出来るのが強み、平均身長180.1cmも藤枝明誠に次ぐ高さ、名実ともに全国に近いところまで来ている。まずは決勝リーグにたどり着き、連勝して2年ぶりの全国を確実にしてから藤枝明誠と優勝を争う展開に持ち込みたい。

浜松開誠館とブロック決勝で対戦するのは古豪復活を果たした**浜松商業**と予想する。近年私学勢の堅い牙城を崩すべく浜松西とともに必死に県8強以上を維持し続ける姿勢に感動を覚え、同じ公立高校の指導者として心から声援を送りたい。今回は3年生1人を残しながら新チームにシフトチェンジしてまずは8強を堅持し、今年の県総体に続く4強に入り、決勝リーグ進出を狙う。今年の中心は昨年から司令塔を任されて経験値を積んだ**宮本剛都**。相手ディフェンスを見極めて無理に中へは入らずにシュートエリアを広く確保して状況を見極めながらボールをコントロール、中に入らないと思わせて果敢にドライブに移行する頭脳明晰プレーヤーである。他にもフォワードながらキックアウトして外からの3Pを見事に決める**神谷将太郎**、どのポジションも器用にこなすユーティリティープレーヤー・**大石真弘**、そしてカットインから突破口を見出すプレーが魅力・誰よりも走り誰よりもチームプレーを重んじる**国本大翔**などの戦力で臨む。

このブロックの注目選手として、**小野寺祐之・甘日岩仁・木村郁斗・渡邊来偉**（浜松開誠館）、**石川凜・井上亮星・栗橋大寿・森川拓登**（富士宮東）、**岩崎隼斗・白鳥兼佑**（常葉大橋）、**前田ガブリエル**（遠江総合）、**別府翔吾**（静岡農業）、**柴田恭成**（清水国際）、**遠藤彰**（清水西）、**岡崎晟那**（静岡サレジオ）、**小林向日葵・高松天成・生子遥仁・塩坂優斗・佐野翔哉**（城南静岡）、**山崎剛空・皆見一雄**（伊豆総合）、**小島紳太郎・吉田優希**（日大三島）、**櫻庭晴陽・川上大輝・石川琉斗・土屋愛翔**（加藤学園）、**千葉壮悟・草間意・鈴木李胡・鈴木遙・佐藤橙亜**（常葉大菊川）、**伊藤湊司**（清水東）、**岩田悠司・鈴木仁・大石修也・今田琉威・周梓俊**（袋井商業）、**古家颯樹・寺下駆・山崎勝矢・山崎幸**（掛川工業）、**筒井大輝・白井力兜・山下晴輝・枝村漱夕・小島颯也**（浜松商業）、**谷村遥斗・小澤希星・増田圭吾・飯田隼斗・竹内銀河**（星陵）などを挙げたい。

## 女子

今大会も7連覇中の浜松開誠館中心の優勝争いになることは間違いない。その中でも長年実践経験を積み続けた主力が最上級生になった市立沼津が常勝女王にどこまで肉薄するか、長期にわたる浜松開誠館の独走を止めるべく勝負をかける展開が予想される。

県内高校136連勝、県内3大会20連覇中、インハイベスト16、浜松開誠館の栄光を数え上げれば枚挙に暇がない。大会展望でも記録の数字を枕詞で語るのが風物詩となってきた。左上のブロックはその浜松開誠館の独壇場となる可能性が高いが、主力3年生が多く残った浜松南や新体制となった静岡女子、絶対的エースを擁する加藤学園など興味深いチームが多いのが特徴である。

**浜松開誠館**は県総体も危なげなく制覇、続く東海総体では全国制覇3回を誇る岐阜女子に残り21秒・大逆転で初勝利、価値ある準優勝を飾った。その勢いでインハイは東京成徳の追撃を振り切り、続く日本航空戦は相手の留学生対応に苦慮したものの部・望月という救世主が現れて鮮やかな逆転勝ち、精華女子には後藤が留学生に執拗にマークされ動きを封じられての惜敗、しかしながらこれらの試合を通じて今年の浜松開誠館が全国レベルのチームであることが証明された。特に今年は近年の強さの象徴である高さとうまさに加えて、内外のバランスの良さが目につく。

チームの中心は**後藤音羽**。元日本代表の両親のもとに生まれたサラブレッド、英才教育を受けながらきちんと他人の指導や助言にも耳を傾ける勉強家。U16日本代表にも選出され今夏ヨルダンで行われたアジア選手権にも出場、特に中国戦ではチームハイの17得点を記録、日本有数のプレーヤーであることを証明した。178cmの長身ながら恵まれたフィジカルとスピードを生かせるようフォワードとして活躍、檜舞台でキャリアを重ねて持ち前のリバウンドと堅守にますます磨きがかかった。内を警戒されれば外からドライブ、そのドライブも国際大会で通用することを証明した。あとは全国へ行ったときにゴール下に仁王立ちする長身留学生とどう向き合うかという高い次元の問題に直面する。現にインハイで対戦した日本航空と精華女子の留学生対策には頭を悩ませた。そんな中でも久しぶりに表れた日の丸選手、静岡県の至宝としてプレーの一挙手一投足に注目



が集まる大会になる。

173cm**部桃菜**はリバウンドや鋭角にカーブするドライブなど魅力満載の選手だが、日本航空戦で見せた留学生への仕掛けは玄人をうならせる職人芸であった。相手ディフェンスの心理を読んでファウルを誘発させるオフェンスを仕掛けると留学生もたまたまファウルアウト、相手は攻め手を失いチームに勝利を導いた。県内最高身長179cm**中老小雪**は特にディフェンスリバウンドを支配してからの速いパス出しで速攻の起点となる。司令塔の重責を任されて2年目となる**井口姫愛**は157cmの小柄ながら相手ディフェンスをかいくぐって放つ3Pが魅力、スティールでボールを奪うと誰しも外からのシュートで点差を縮めたい思いを抱きながらもつい安全なレイアップに行く傾向にあるが、彼女は果敢に3Pを挑んできちんと決めるスキルがある。天賦の才能もあるだろうが不断の努力の賜物であろう。東海国体にも出場した**前川桃花**は全中制覇のキャリアを持つ大型新人、地区総体から一貫してスタメン出場を続けてさらにテクニックに磨きをかける。スティール・アシストなど数字に見えにくい貢献度も抜群、今年一押しのスーパールキーである。

そしてこの夏、怪我から復帰しインハイでもチームの窮地を救ったのが部とのW主将・**望月秋桜**。5月の練習試合で左膝の怪我を負い、県総体・東海総体とも試合出場がかなわずベンチで声援を送るなど辛い毎日を過ごしたことは想像に難くないがリハビリとたゆまぬ努力の甲斐あって7月中旬に実践復帰、持ち味である堅いディフェンスとリバウンド・ルーズボールという泥臭い球際への執着を取り戻した。途中出場した日本航空戦では点差が9点まで開き始め敗色ムードが漂い始めるなか、ジャンプショットで点差を詰めて最後には3Pまで決めてあつという間に逆転、勝利の女神となった。

その他にも、インハイでスタメン出場して大輪の花を咲かせた**山本さくら**、インハイにも出場した**八重柏憂奈**、東海リーグでの活躍が印象的な175cm**杉山実子**、国体県選抜にも選ばれた**大杉光・小幡美空・鈴木結愛**など県内随一の厚い戦力で大会に臨む。勝利を重ねるたびに反省点も洗い出して即時に修正、さらに連勝を重ねて勝ち続ける。そして勝って兜の緒を締める常勝軍団は全国4強以上を見据えてまずは大会8連覇を目指す。

昨年3位、今年の県新人・県総体ともに7位の**浜松南**もこのブロック。昨年の県総体で5位を勝ち取ったのが快進撃のスタート、昨年のこの大会でも準々決勝で東海大翔洋に鮮やかな逆転勝ちを飾って初のメインコートにたどり着いた。この大会中に主力の**平澤心花咲・伊達咲良**が相次いで大怪我に見舞われ約1年間無念の戦線離脱、その間大黒柱の**忠内清**を中心に下級生の**山村梨心・吉田遙・興水想来**など新しい力も芽生え、特に司令塔・忠内の多彩な攻撃と山村の気迫あふれる3Pは数々の窮地を救ってきた。例年は県総体終了後に3年生は引退するのが通例だが、今年は平澤・伊達・忠内、そして**矢波芽依**の4人がチームに残った。平澤・伊達の怪我も少しずつ癒えて今大会1年ぶりに公式戦の舞台に立つ。新入生にも少年女子の一員として東海国体にも出場した新戦力・**新林芽依**も加わり、結果的に昨年よりも戦力が充実した状態で大会に臨むこととなった。平澤は鋭いドライブからのカットインを得意とし、相手の出方によってはパスやシュートにシフトチェンジできるバリエーション豊かな攻撃が魅力、忠内は安定したボール運びと接触をいとわないハードなディフェンスが持ち味。順調に勝ち上がれば準々決勝で浜松開誠館との戦いが待ち受ける。戦力充実の浜松南にとってでも非常に厳しい戦いとなるが、昨年果たせずに終わったベストメンバーでの戦いに挑み、昨年来からの「夢の続き」を実現させたい。そのためにも怪我には十分に気を付けてその日を迎えて欲しい。誰にでも当てはまることであるが、「無事、これ名馬」これほど全選手たちに心に刻んでもらうのにふさわしい言葉は見当たらない。

浜松南と4回戦で対戦が予想される**加藤学園**には不動のエース・173cm**ワシントンジュリ**がいる。私はこの選手を高く評価する。すばらしいボディバランス、卓越した跳躍力、広い視野から繰り広げられる抜群のパスワーク、ファウルされてもアンドワンに持ち込む力強さ、どれをとっても一級品、今大会プログラムの裏表紙にも大抜擢させていただいた。遠藤陽向（市立沼津）、鈴木榎奈美（沼津商業）、**辻村明日花**（三島南）と並ぶ東部トップアスリート四天王と評したい。他にもタイトなボールマンディフェンスとスピードが特徴の**高橋心杏**、多彩なドライブや安定した3Pから得点を生むポイントゲッター・**福原彩**、スピード感のあるドライブや広い視野から繰り出すアシストパスが真骨頂・**藤倉華音**など見どころが多い選手が揃う。

県総体ベスト16・**静岡女子**は昨年度末で創部以来36年間チームを率いた**柘植夏也**監督が勇退、青年監督・**池谷駿佑**が伝統あるチームを受け継いで新生・静岡女子をスタートさせた矢先に柘植前監督が急逝するという訃報に接した。全国出場3回を誇る名監督、教えを受けた選手たちも前監督の薫陶を胸に大会に臨むだろう。**本間梨乃・川合心・山田梨央奈**を中心としたメンバーで1つでも多くの勝利を墓前に捧げて欲しい。

このブロックの注目選手として、**吉松来美・鈴木日和・杉本あゆ美**（藤枝東）、**中野春風・大木愛美・松永紗波・岩田蒼未**（駿河総合）、**山田絢翔・澤渡歩・長橋穂乃花・堀越日菜**（静岡市立）、**前原由奈・山田七菜・田村菜月・遠藤さくら**（沼津西）、**片岡瑞希・水口晃・石川歩美・増田芽依**（島田商業）、**望月優那**《2年生》・**曾根未来・望月優那**《1年生》・**小川心優**（静岡女子）、**宮野友里・小林生実・谷川侑来・根木歩歌・竹内結衣**（浜松湖東）、**田村悠香・大竹里奈**（加藤学園）、**高橋香住**（浜名）、**鈴木咲蘭・内山心・泉地彩音**（常葉大菊川）、**坪田真由美・平野絢音・岡田美紀**（浜松開誠館）、**萩原静音・藤田結依花・若林鈴音**（浜松南）などを挙げたい。



左下のブロックは県総体準々決勝でも激闘を繰り広げた浜松学院と藤枝順心が準々決勝で再戦することになりそうであるが、**浜松市立・東海大静岡翔洋**などの実力派チームも上位進出を狙っており、群雄割拠の注目ブロックとなった。

昨年準優勝の**浜松学院**は県総体3位決定戦で浜松聖星に競り負け2年連続の東海総体出場を逃した。昨年からガラリとメンバーが変わり苦しい1年になるかと思われたがきちんとチームを組み立てて来て、さすがの一言に尽きる。東海新人にも連続出場、中部新人・中部総体も制して浜松開誠館を脅かすかと思われた藤枝順心を相手に一度もリードを許すことなく終わってみれば32点差の圧勝、特に第1Qに見せた怒涛の猛攻38得点は寒鰯までに相手の戦意を奪い取った。「もうあのオレンジ色のユニフォームは見たくない」相手にそこまで思わせる強さを見せたまさに浜学バスケの真骨頂であった。今年の中心は171cm **ワネケジジュリエット杏奈**。市立沼津を3点差まで追い詰めた県総体準決勝では20得点、破壊力のあるドライブでゴール下をペネトレイトする。気迫あふれる闘志でチームの屋台骨を支える**鈴木愛名華**は浜松聖星戦で孤軍奮闘25得点、この選手の表情・気持ちによって選手が鼓舞され、潤滑油となりチーム全体が機能する。他にも藤枝順心戦3P5本を含む27得点、センターを守っても無難にこなせる高さと能力をもちながら中盤に徹して得点を重ねる**足立珊瑚**、**相川樹由**・**出口愛珠**のレギュラー陣、170cm超のインサイド**篠原美咲**・**高山璃世**、東海国体にも出場した**黒野梨緒**や予備選手の高柳亜知葉など1年かけて作り上げた渾身（こんしん）のチームでまずは再戦が予想される藤枝順心を返り討ちにしたい。

**藤枝順心**は浜松学院に思わぬ大戦を喫したあと気を引き締めなおして浜松南に逆転勝ち、続く常葉大常葉戦にも快勝し5位をキープ。今大会は浜松学院との再戦に勝利して浜松開誠館への挑戦権をつかみたい。得意の空中戦に持っていけばどのチームも太刀打ち出来ない強さを発揮、そのためにもプレッシャー対応とリバウンド支配がカギとなる。中心となるのはどこからでも吸い込まれるようにボールがリングに入るアウトサイドの魔術師・**加藤咲空**。浜松学院戦では執拗なダブルチームで足を封じられたが続く5位決定2試合では3P11本を含む60得点。相手ブロックをかいくぐり崩れた姿勢でも確実に決める素晴らしいプレーヤーである。加藤とともにチームを牽引するのは**石部希歩**。加藤の調子を見極めながら3Pとドライブを使い分ける試合巧者、もともとは中距離タイプの選手でミートしてから絶妙なタイミングで放つジャンパーも得意とする。他にもアウトサイドに位置して加藤からのパスにグッドタイミングで反応し3Pを放つ**齊藤璃**、171cmの身長を生かしてリバウンドを一手に引き受ける**石田妃菜里**などこの1年間で培った経験を活かしながら4年ぶりのメインコートを目指す。

その他の注目選手として、**佐藤吏璃子**・**丸山真央**・**山下美優**（静岡大成）、**金田ありさ**・**御手洗寿奈**・**江本瑠奈**・**勝部真菜**・**後藤由奈**・**深瀬柚月**（三島南）、**辻玲奈**・**高橋倅菜**（浜松日体）、**氏原楓葵**・**鈴木碧衣**・**平野菜陽**・**野島侑香**・**佐藤葵**（西遠女子学園）、**遠藤すず**・**船山穂香**・**花枝咲和**・**播磨実花**・**稲葉叶**（東海大静岡翔洋）、**伊藤葉奈**（清水南）、**穴水柚衣**・**渡邊蒼衣**・**星莉留葉**・**望月悠理**・**熊崎千奈**（清水西）、**小林由佳**（静岡雙葉）、**周祉燿**（袋井商業）、**石濱怜**・**高橋弥恵**・**柴田那渚**（浜松市立）、**大川原華**・**大平陽菜乃**（掛川東）、**永見みずほ**・**河村南美**・**彦坂好胡**（浜松北）、**小池紫寿**・**市来萌華**・**前林実希**・**高山莉良**・**杉山未緒**（藤枝順心）、**山田野乃実**・**伊藤帆南**・**田開瑚生**（浜松学院）などを挙げたい。

右上のブロックは県総体3位となり初の東海総体出場を果たした浜松聖星とウインター出場県内最多16回を誇る常葉大常葉が頭一つ抜けている感がある。

**浜松聖星**は東海新人出場を賭けた試合を体調不良で無念の棄権、その悔しさを糧に練習に精進し見事東海総体初出場を勝ち取った。緊張の面持ちで臨んだいなべ総合学園との一戦はオーバータイムまでもつれる死闘となったが最後は力尽きて東海初勝利を逃した。その試合を最後にエースの**大滝菜々子**が戦列を離れたが9月に電撃復帰、チームにとってもこの上ない朗報となった。国体選手としても貢献した超一流のオールラウンダー、安定したシュート力、膝を柔軟に使った加速力のある3P、冷静沈着に決めるフリースロー、相手の心理を巧みに読んだ駆け引きある1on1など挙げだしたら紙面が尽きる。東海総体でも相手の激しいディフェンスの間をついてチーム最多の17得点、言わずと知れた攻守の大黒柱の復帰に心躍らさずにはられない。大滝とともにチームを支える**内山瑚子**は唯一U18から成年女子国体選手に選ばれ東海国体にも出場した逸材、選ばれた名誉もさることながら大学生を含む社会人と一緒にプレーをしてテクニックを吸収できたことが財産となったはず、勝負所で見せるクロスステップからの高速ドライブで放つワンハンドレイアップにも磨きがかかっている。他にも東海総体で出場機会を得た**岡本惺永**・**片山日菜**、県総体・浜松学院戦で途中出場しダメ押しの追加点を挙げた**松村莉音菜**などの主力の3年生と夏のリーグ戦を通じて伸びてきた下級生がどこまで阿吽の呼吸で機能するか、まずは県総体同様準々決勝で対戦が予想される常葉大常葉との戦いに全力を尽くしてから9年ぶりのメインコートのことを考えたい。

県新人5位・県総体6位の**常葉大常葉**は全国優勝2回の輝かしい偉業を誇る全国屈指の指導者・**小前宏史**前監督に代わり、長年指揮官の右腕として数々の修羅場をくぐり抜けてきた**佐野恵子**コーチが今大会監督として公式戦初采配を振るう。今まで試合中名将の隣に座ってメモを取り続ける姿が印象的、新体制になって何がどのように変わって進化したのか楽しみである。近年ドライブとペイントエリア中心に中で勝負するスタイルの印象が強く、その申し子が**佐野実咲**であり**松本しずく**である。そ



の中でも**海野希帆**は積極的に3Pを放ち他の選手との役割の差別化を図る。中盤には**伊藤亜莉沙・中野菊花・森輝月・須田理子**、インサイドには176cm**河島唯奈**と県内最高身長179cm**室伏理緒**が待ち構える。実戦経験を通じて新監督の思い描く戦術を選手が理解してコートで実践していくことが現在の課題。どんな変化があっても変わってはいけないこと、それは伝統の「ステイロー」を続けること、まずは4回戦での対戦が予想される静岡東戦に勝って県武道館で浜松聖星にリベンジを果たしたい。

その他の注目選手として、**小柳真実・望月美空・山本寧々・栗田詩織・石井伶奈**（静岡東）、**海野陽香・宮本奈菜花・渡邊春菜**（静岡学園）、**江川汐音・菊池姫奈・村松美咲**（静岡西）、**佐久間日向**（静岡農業）、**川口ひいろ**（静岡サレジオ）、**山田芽以・増田悠伽・杉山花音・中山志緒梨**（静岡商業）、**福與芽生・西村歌里那・田尻爽子**（島田）、**石田琴音・窪田陽菜・平野ひまり・飯田綾夏**（三島北）、**山崎苺花・堀田佑希・横尾天音・佐藤心葉・石川真琉・坪井雪羽**（富士宮東）、**平井優月・山崎実琉愛・福川玲那・市川由那・芝本有紗**（浜松東）、**大竹花・三井亜利華**（浜松聖星）などを挙げたい。

右下のブロックは県総体準優勝・市立沼津が圧倒的な力を誇りメインコートに一番近い位置にいる。それを県総体7位の沼津商業が個性的あふれる戦力で追いかける展開、中学時代クラブチームに所属していた1年生が入学直後から主力となり上級生ともマッチして県総体ベスト16に入った**沼津中央**も面白い存在である。

優勝11回を誇る**市立沼津**は円熟期を支えた3年生が迎える最後の大会、県新人・県総体ともに浜松開誠館に敗れ優勝を逃しているだけに、まずは順調に勝ち進んで5年ぶりの決勝に進み充実した戦力で大願成就を果たしたい。東海新人・東海総体ともに勝利を挙げ、さらに東海リーグでは強豪相手に4勝を挙げる躍進を見せた。激しいプレッシャーディフェンスで常に相手に対して優位に立つバスケットが特徴である。エース・**遠藤陽向**は攻守のバランスの取れた唯一無二の好選手、ディフェンスが寄る前に素早く3P、スペースを早めにとらえて鋭く切れ込むドライブ、巧みにジャブステップやロッカーモーションを使って相手をかわすディフェンスなどすでに名人芸の領域、この選手の活躍がチームのバロメーターとなる。**遠藤有菜**は接触をいわず果敢にリバウンドを取りに行くパワフルな選手でミドルの精度も高い。**勝亦真結**は底なしの体力と1線へのボールプレッシャー、手足の長さを生かしたリバウンドでチームに貢献する。シューター・**藤木楓**は自分と遠藤の調子を見極めながら試合によっては3Pに専念、また状況によってはつなぎに徹することができる天才肌の選手、堅い守備面でもチームに貢献する。中盤からインサイドには170cm代の選手が多く揃うのも特色、昨年度遠藤とともに県協会U18優秀選手にも選ばれ、長い手足と抜群の跳躍力を生かしたリバウンド支配が魅力・175cm**河谷真矢**を筆頭に河谷との連携したインサイドプレーが冴え渡る174cm**横山文音**、昨年女子で唯一クラブチームから県協会U15優秀選手に選ばれた170cm**野田志**、他にも172cm**竹ノ内菜優**、173cm**上原美桜**、170cm**植田亜湖**など長身選手が揃う。堅い守備、全員リバウンド、全員で速攻を心掛ける、その当たり前のことを徹底して行えば決して優勝も夢ではない。まずは一つ一つ勝利を積み重ね、常勝王者に勝って13年ぶりの優勝を手にしたい。

**沼津商業**は県大会でも8強に顔を出す上位常連校となった。県総体では2勝したあと浜松開誠館と常葉大常葉に敗れたが堂々の7位に輝いた。粘りあるディフェンスからアグレッシブな速攻オフェンスにつなげ、組織的な戦術や約束事を徹底して1+1が3にも4にもなるバスケットを展開する。インサイド170cm・**鈴木椋奈美**の強靱なフィジカルから繰り出すパワープレーは必見、常葉戦で第2Q始めに3連続で得点したシーンは私の記憶にまだ残る。ランプレーにも十分に対応できるだけのスピードがあり、トレーニングで鍛えられた跡が如実に見える注目選手である。他にも中盤から鈴木に絶妙のパスを出す**向井京**、外からの3Pもある**稲田楓羽**、令和3年度に史上初めてクラブチームからU15優秀選手に選ばれた**庄司奈納**、堅いディフェンスに阻まれた開誠館戦で孤軍奮闘15得点を決めた**梅原優月**など常に県8強を維持できる戦力を誇る。準々決勝で東部総体・東部新人決勝の名物カード・市立沼津戦が予想されるが、まずはその前に県総体で勝利した浜松商業との対戦が控える。相手も雪辱を期すべく対策を講じているはず、絶対に負けられない戦いを制し5年ぶりの県武道館で市立沼津と対峙したい。

その他に、**市川日夏乃・栗田さわ・竹中心南**（清水東）、**堀小春**（常葉大橋）、**河村紗綾・小関若菜・山田千恵・三浦綾夏**（浜松商業）、**山本こころ・後藤さつき・江川風・依田愛巳・モア綺蘭**（沼津中央）、**柴山梨央**（藤枝北）、**五十嵐愛生・中島心遙・鈴木沙綾**（磐田北）、**梅本理世・若山紗羽・河合桜・三浦羽葉・佐々優華**（静岡）、**佐野満里奈・織田愛加・富高華音・鈴木娃賀・鈴木真花**（飛龍）、**小久保美波・杉田佳奈美・山田和奏・金子ひまり**（浜松湖南）、**清水杏那・白井小夏・白井碧・江藤碧音**（沼津商業）、**川口青空・合澤小菊・米内心菜**（市立沼津）などを注目選手に挙げたい。

最後に、参加校が年々減少する中、2年ぶりの出場となる**稲取**と**加藤学園暁秀**、同じく2年ぶりに「単独チーム」で出場する**富士東**と**富士見**の健闘も心から祈りたい。